



常務取締役/理事・税理士

田野口 和矢



戦国の三大英傑 織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の性格を表すものとして、次の歌が有名です。

信長「鳴かぬなら殺してしまえホトギス」

秀吉「鳴かぬなら鳴かせてみようホトギス」

家康「鳴かぬなら鳴くまでまとうホトギス」

信長の句は、意に従わない者を討ち果たす武闘派スタイル、秀吉の句は、なるべく戦わずに相手を調略したり、降伏させて天下を取った秀吉の知略スタイル、家康の句は、信長、秀吉のもとで耐え、チャンス待ち続けた家康の忍耐力を表しています。

もう一つ戦の時に使用する「のぼり旗」にもその違いがあります。



織田信長の旗印は、当時の中国である明から輸入した貨幣「永楽通宝」が描かれていました。明るい黄色の布に永楽通宝が縦に3つ並んだデザインです。豊臣秀吉は、「総金」と呼ばれる金色の旗印を使用していました。旗印には文字が書かれておらず横に何箇所か切れ込みが入っています。徳川家康は「三葉葵」や「白地無紋」でしたが、桶狭間の戦い以降「厭離穢土欣求浄土」（おんりえどごんぐじょうど）と書かれた旗印を使用していました。

厭離穢土欣求浄土とは「穢れた現世（戦国の世）を逃れ清らかな仏の国（平和の世）に生まれることを望む」という意味です。のぼり旗は戦場で兵を鼓舞するものですから、「何の為に戦うのか」という思想が現れていると思います。信長は経済的な豊かさを追求し、秀吉は天下統一を、家康は平和な世の中を希求していたのではないのでしょうか？結果として、信長や秀吉は1代で終わり、家康は15代まで300年近く続きました。

戦国時代の人々の願いは、お金でも地位でもなく、平和な世の中だったのかと思います。現代社会においても人々の願いは同様かと思います。ビッグモーターのように、会社の業績を上げることに執心し社員は自己保身やお金の為に働いた結果はどうなったでしょうか。私達は幸せになるために働いています。ただお金を稼ぐ手段として働いていても幸せになれません。どんな会社で働くか、どんな仕事をするのかの方が大事な要素になります。

戦国時代の「のぼり旗」は戦う兵の羅針盤であり、それは、会社の経営理念と同じ役割を担っています。どんな考え方で戦う（仕事）をするのか。それが戦（ビジネス）の勝利に大きく影響します。「正しい考え方で経営すること」これが会社永続発展の秘訣だと思います。

正しい考え方（プラスの考え方）とは

- ・常に前向きで建設的
- ・協調性
- ・明るい
- ・肯定的
- ・善意に満ちている
- ・思いやりがあって優しい
- ・真面目
- ・正直
- ・謙虚
- ・努力家
- ・利己的でなく強欲でないこと
- ・「足る」を知っていること
- ・感謝の心

間違った考え方（マイナスの考え方）とは

- ・後ろ向き
- ・非協調的
- ・暗く悪意に満ちている
- ・意地が悪く他人を陥れようとする
- ・不真面目
- ・嘘つき
- ・傲慢
- ・怠け者
- ・利己的で強欲
- ・不平不満ばかり
- ・人を恨み、妬む